

科学深く知り楽しんで



文部科学省のスーパー・サイエンス・ハイスクール（SSH）事業の指定を受けている藤島高は、同事業の一環で独自教材「私たちはなぜ科学するのか」高校生向けの基礎教養 第2集」を作成した。2015年に作った第1集の続編で、科学の意義や素晴らし

さを伝える評論や名文34編を収録した。SSH指定3期目（14～18年度）の同校は「教養」と「深く考える力」の育成を目標に掲げている。特定の領域の学力を伸ばすだけでなく、教科横断的に知識をつなぎ合わせ、知の全体像を俯瞰的に把握する力を

伸ばすための教材が必要と考え、第1集では近代社会システムに関する文章を集めて紹介した。第2集は、生物や化学などの教員4人が中心となり、16年2月に編集に着手。自然科学の分野に絞り、古今東西の名著から文章を採

藤島高が独自教材

名文など34編収録

独自教材「私たちはなぜ科学するのか」の編集を担当した藤島高の教員・福井市の同校

い「先駆者たちの発想」

など計4章で、湯川秀樹や利根川進、寺田寅彦、ガリレオ・ガリレイらの文章を紹介している。

人工知能や小惑星探査機「はやぶさ」、相対性理論などジャンルは多岐にわたる。国語の授業で読む文章

は科学の限界や科学不信についてのものが多いため、科学の楽しさや喜び、科学的な探求の現場の雰囲気

を伝える文章を中心に集めたという。

編集委員の青木建一郎教

諭（政治経済）は「自分の頭でものを考え、自分たちの手で社会をつくっていく

際、論理的に考えるための科学という『型』を知ることが、科学的な思考を流さな

えることは非常に重要だ」とし、理系生徒はもちろん、文系生徒にも読んでほしいという。

第2集では、高大接続を意識し、編集委員に福井大学の教授陣が加わった。委員の1人、同大工学部の飛田英孝教授は、冒頭に「高校生のみなさんへ」と題した文章を寄せて「創造力は一部の人たちの特殊な能力ではありません。普段つながら意識しない事象をつなぎ合わせたときに発揮される能力。多くの知識と考える方を身につけておく必要があります」と記し、高校時代までに幅広い分野の学習をするよう呼びかけている。

7月中旬に全校生徒に配り、生徒が課題研究に取り組み「研究」などの授業や読書活動で活用する。書籍は市販も行つ。800円（税別）。勝木書店で取り扱っている。（宇野和宏）